The page features several decorative geometric patterns in the corners. These include overlapping circles and triangles in various colors such as orange, purple, yellow, teal, and pink. The patterns are arranged in a way that they appear to be floating or overlapping each other, creating a vibrant and modern aesthetic.

こども編集部

～フリーランスが集まって
ちょっと強めのチームを作る編～

2023年7月18日現在

こども編集部とは

こどもが作り こどもに届ける
そんなメディアの発信基地

編集部事業×学び×地域活動

大人もこどもも、関わる全ての人が、一緒に成長できる場所にしたい



コミュニティのメインミッションを「メディア作り」とする

※メディア…雑誌やweb媒体に関わらず「伝えるもの」全般を指す

団体について

2020年4月
任意団体としてスタート

2023年4月
労働者協同組合こども編集部として
再スタート

【主な事業】

編集部事業
キャリア教育オルタナティブ教育事業
地域部活事業
子どもと大人の居場所作り事業
地域食堂事業

【メディア】

〈2021年5月〉ABC放送「キャスト」特集
〈2022年1月〉神戸新聞
〈2022年2月〉J:COM
〈2022年4月〉ぷらっと表紙
〈2023年2月〉広報誌KOBE
〈2023年4月〉NHK特集

【支援】

垂水魅力アップ助成金採択団体
こどもゆめ基金助成活動
ひょうご子ども・若者応援団採択事業
まちづくりスポット助成採択事業
PTAこべっこ助成活動団体
オリックス宮内財団助成団体
神戸市居場所作り事業支援団体

事業内容

編集部活動

キャリア教育

地域部活動

こどもの居場所

地域食堂

編集部活動から始まり 現在は上記の事業を実施



編集部活動

大学のゼミ
もしくは産学連携の様な
イメージで

主に企業等からの依頼を基にプロジェクトを組む
子ども達は興味があるプロジェクトにたずさわり
成果物・制作物等を納品するところまでを行う

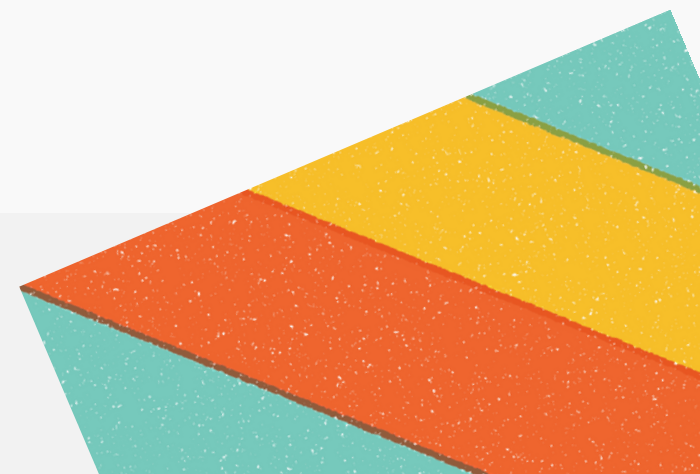
ワンダリズム
きみを待つ町マップ





キャリア教育

- ①学びのきっかけに出会う
ワークショッププロジェクト
- ②未来のヒントに出会う
取材プロジェクト
- ③学びの視座やリテラシーを高める
哲学対話プロジェクト



地域部活動

代替部活団体

KOBEジュニアハイスクールクラブに
メディア部として所属し
地域部活としての役割も

学校の枠を越えて、新聞部・放送部・写真部・文芸
部・美術部・演劇部の融合の様な活動を目指す



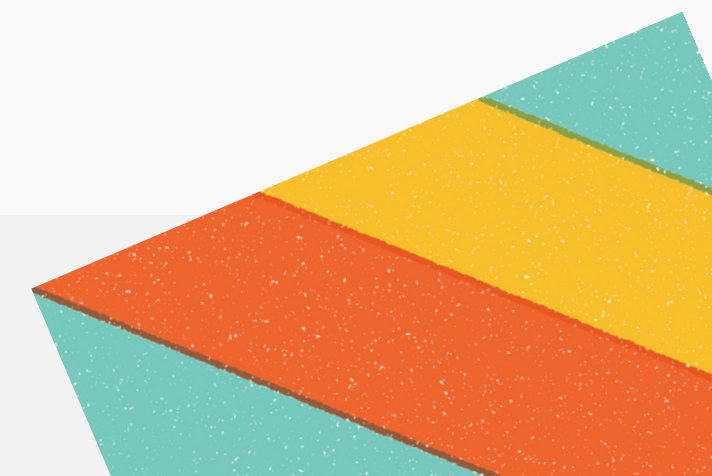


子どもとおとなの居場所

フリーアトリエ・自習室
「雨のち光」

地域食堂

しおやもぐもぐ食堂



2022年度までの活動実績

1 行政や企業と

- ・ 山陽バス様とバスマップ制作
- ・ 神戸市&TOHOアニメーション様と聖地ガイド制作
- ・ WONDERFUL瀬戸内様誌面制作
- ・ こども未来通信社神戸市局担当
- ・ NIE学会と連携
- ・ 毎日新聞社様とイベント及び誌面

制作コラボ

2 他団体や事業主と

- ・ まちスポ神戸様と子どもが主役のイベントの企画及び取材
- ・ MYS様のユニバーサルファッションショーの撮影
- ・ SDGsKOBE様とエコ商品ラベルの制作
- ・ 他年間10~20本のワークショップやイベント及びプロジェクトのコラボ



3 地域と

- ・ 地域の空家のリノベーション作業のお手伝い（現在の活動拠点）
- ・ 子供の居場所としての自習室の開放や地域食堂、駄菓子屋さんの実施
- ・ 代替部活としてKJHCにメディア部として所属

運営メンバー

金井智美

代表・取材班・営業
写真事務所代表

右近聖

副代表・取材班
ライター・編集者・教員免許

近藤美穂

制作進行管理・コーディネーター
空間デザイナー

河本奈緒

マネージャー・コーディネーター
イラストレーター・ライター



増田麻未

コンテンツ制作・営業
広報・ビジネス戦略

服部麻衣

会計業務
税理士事務所勤務

相良加奈子

スケジュール管理・事務・広報
webライター



金井智美

ココ ▶ 代表・取材班・営業

イツモ ▶ 写真事務所代表

兵庫県立大学環境人間学部哲学専攻卒業
写真事務所 ヒカリノコバコ代表

大学時より、子供達と思考する学びの場、表現する学びの場を作りたいと考えていた。

が、ひとまずは自らが「好きなこと」で生きることを追求してみようと思い、長年形を変えながらフォトグラファーを続けている。

知識・経験・ツテがだいぶ揃った40歳を機に、「こども編集部」設立を決意。

集まったメンバーの はじめの一步

友達でも仕事仲間でもありませんでした

**自分のスキルを活かして
子どもたちのためになることをしたい
ワクワクできることをしたい**

最初にボランティアをしてくれたメンバーの中で
そんな話ができる人に
「一緒にしない？」と声を掛けました



近藤美穂

ココ ▶ 制作進行管理

コーディネーター

イツモ ▶ インテリアデザイン

事務所代表

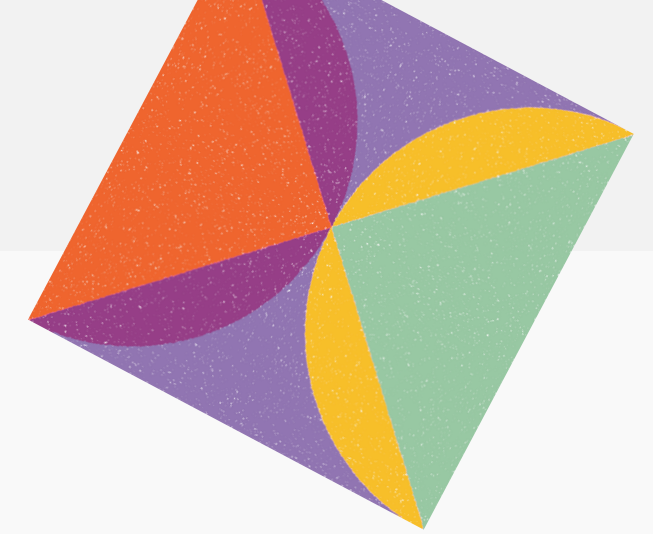
大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業

インテリアデザイン事務所 旅するオウチ代表

自然素材をこよなく愛するインテリアデザイナー。

「旅に出る時のよう自分で選んだモノだけで、身軽に気軽に暮らす」をコンセプトに、単にインテリアやモノを整えるだけではなく、暮らしを自由に楽しむことを目的とした、片付けや空間の使い方を一緒に考えることを大切にしている。

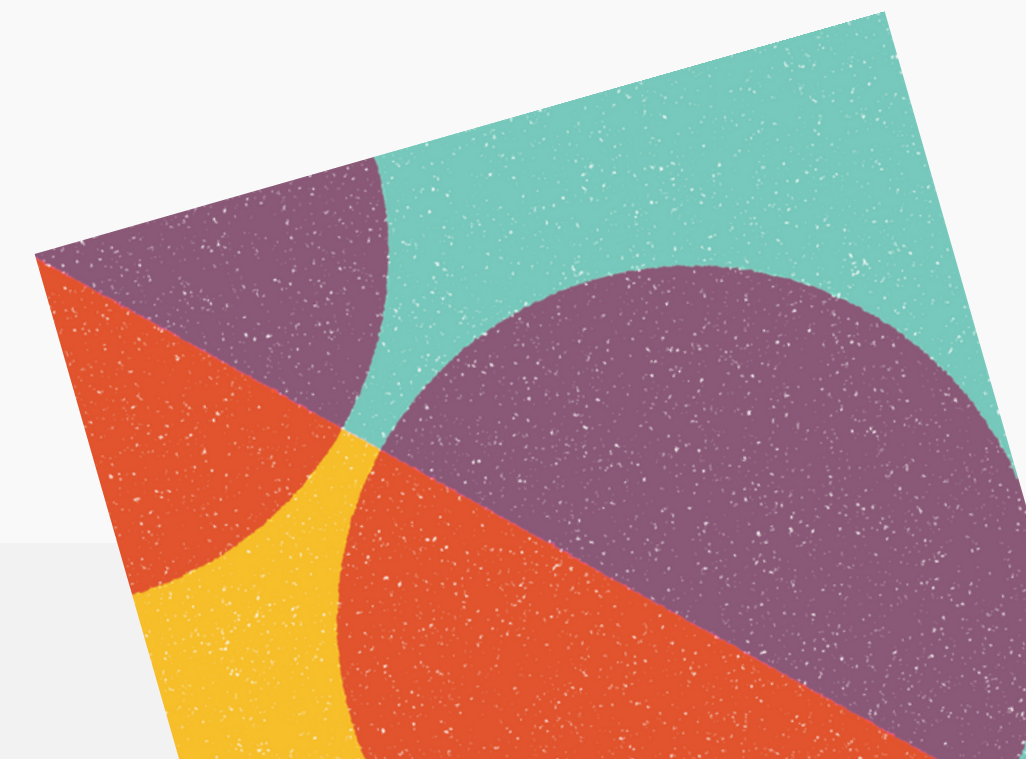
そんな私たちが解決したい課題



体験の格差を少なくしたい

公教育のサポート的役割を担う仕組みを作りたい

- 学校でのクラブ活動・課外活動・部活動等の機会が急速に減少している
- 先生（になりたい）人が減っている
- 学校以外の場所を探している親や子どもが増加している
- 家庭環境等による機会の格差がある



面倒なのに法人化！？

体験の格差を少なくしたい



習い事のように子供達からお金をもらう仕組みではない方法で運営したい



別の方向から資金調達が必要がある

- 信頼感
- 企業や行政との金銭のやり取りのしやすさ
- 業務委託への応募
- 助成やファンドレイジングへの応募



なんで労働者協同組合！？

- ①設立までが早い・安い
- ②運営サポーターのポテンシャル、モチベーション、ライフスタイル、ワークスタイルを考えて
- ③諸外国の社会的協同組合について勉強をしたときにこういう法人形態があるということを知っていたのでアンテナを張っていた
- ④法人の必要性が高まった時に法が整った

法人化して力を入れたいこと

これからの2年は
持続可能な運営ができるよう活動を充実させたい

- たくさんプロジェクトを行い
事例を増やしていきたい
- 子供たちが学んだり
体験してきたことを見える化したい



ロゴもwebサイトも1期生と作りました



Instagramで日々の活動を発信中